基調講演

『地産地消が地域を変える』

全国地産地消推進協議会会長
東京農業大学応用生物科学部教授　　小　泉　武　夫

ひと昔前の日本はとても豊かであった。自然は私たちの身近まで迫り、田や畑には作物が実って豊饒とし、港には魚介が溢れんばかりに水揚げされていた。人々の食料は自給自足で十分に足り、余りものはお裾分けしたりして皆で食べていた。夏には全国各地で盆踊りが開かれ、御先祖様の霊を迎えて豊年満作を喜んだ。収穫の秋は、恵みを与えてくれた神様に、豊穣の感謝を捧げるために祭を行って賑やかに神と饗応した。とにかく町も村も田圃も畑も川も沼も湖も海も、全てが生命の躍動感に溢れていて、豊かであった。

しかしそれから５０年を過ぎた今の日本を見よ。農業と水産業は凋落が続き、そこから多くの若者が去り、食糧の大半は海外からの輸入に頼っている。このまま海外に食を頼っていたのでは、BSE や鳥インフルエンザ、遺伝子組み換え、農薬禍、抗生物質禍などを例にとっても、食の安全・安心の問題が根本から問われることになる。また、昨今の地球規模での異常気象は、日本に食糧を供給している国の農水産物の収穫にも影響を与え、とても不安な状況が続き始めている。

一方、これまで農産物を日本に輸出してきた中国は、急激な経済発展を続け、今や食料の一部を輸入する国となり立場が逆転してきた。

このように、日本をとり巻く農と食の問題は、今やとても深刻な状況に陥っている。このような状況が続いている今、国を挙げて地産地消を進めることは、急務であり、この国民の将来を決する重要な問題である。

○地産地消とは何か
○日本農業の現状と問題点
○日本人の食生活の激変と問題点
○地産地消の在り方、進め方
○地産地消と子供の教育
○真の国の豊かさこそ「農」の発展に在り

講演者のプロフィール

小泉　武夫（こいずみ　たけお）

福島県の酒造家に生まれる。1966 年東京農業大学農学部卒業。現在東京農業大学応用生物科学部教授、鹿児島大学客員教授、広島大学非常勤講師、農学博士。専攻は醸造学、発酵学、食文化論。1998 年 6 月、随筆『中国食材考』でベストエッセイスト（日本エッセイストクラブ・文芸春秋）に選ばれる。主な著書に『酒の話』（講談社現代新書）、『発酵』（中央公論社・中公新書）、『食と日本人の知恵』（岩波書店）、『食あれば楽あり』（日本経済新聞社）など単著 93 冊を数える。

さらに、『食あれば楽あり』（日本経済新聞社）、『美味巡礼の旅』（毎日新聞社）などを連載執筆中であり、また、『全国こども電話相談室』（TBS ラジオ）、『小泉武夫の行った・見た・食った』（RKB 毎日放送）などに出演中。

ほかに、農林水産政策研究所客員研究員、NHK 国際放送番組審議会委員、「立ち上がる農山漁村」有識者会議委員などとして活躍中。